

支援者による報告2 -

不登校を経験した生徒と出会って ～かかわり合いの大切さ～

星槎国際高等学校
教諭 梅田久美子

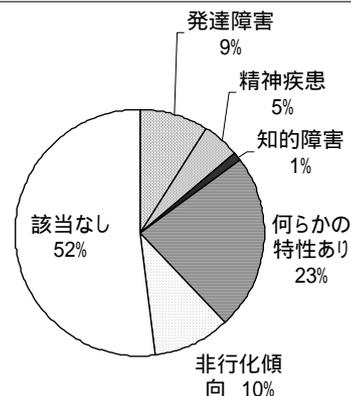
1. はじめに

小中学校において不登校を経験した生徒が本校には、70%在籍していますが不登校解消率は、84%です。自己肯定感が低いことや自尊心が高すぎるためにできない自分を受け入れられないといった問題を抱えている生徒も見受けられます。そこで、一人ひとりに合った個別の対応を行うという教育を実践しています。その事例として、私が出会った男子生徒A君について紹介します。

2. A君の事例紹介

- (1) 入学時の心理教育アセスメント
- (2) 家庭・学校でのかかわり
- (3) 現在のA君の状況

参考:全校生徒における生徒層の割合
(平成21年5月現在)



3. かかわり合いの場面設定

生徒と関わる中で、心がけた場面設定の例を以下に10項目あげます。必要とされている

ことに気づく、自分が認められたと感じる、できることを広げる、人のためを思う、当たり前(自然や生きていること)の大切さを知る、大変さの中に楽しみを見出す、人と触れ合う、共に成長する、工夫してやってみる、新しいことに挑戦する。これらの場面を設定することで、生徒の自己肯定感や自尊心を高めることが必要だと感じています。

4. おわりに

紹介した事例の他にも家族に成績不振を強く言われて摂食障害となった生徒や小中学校のいじめ経験により登校できず、勉強についていけない生徒、人とうまくコミュニケーションが図れない生徒など心に何かしら不安や悩みを抱えている生徒も少なくありません。星槎国際高校では、このような様々な過去の経験を持つ生徒同士が互いに「かかわりあえる場所」を提供しています。その中で、生徒たちから「かかわり合いの大切さ」を教えられることが多くあります。これからも生徒たちとともに学び育み合っていきたいと思えます。